

豊田市内における橋梁の景観意識調査と分析

豊田工業高等専門学校専攻科 学生員 鈴木 薫
 豊田工業高等専門学校 正員 荻野弘, 野田宏治
 北海道庁 正員 宮田加奈子

1. 研究の目的と背景

都市の整備を進めるにあたって、質的水準の向上が求められるようになってきた。特に橋梁設計における景観の重要性は広く認知されてきており、景観を意識しながら計画、設計、建設（架設）をすることが望まれるようになってきた。これまで橋梁設計は、設計者と施主の意思で決定されるものがほとんどで、利用者側の評価を重視されることなかった。

そこで、本研究では、豊田市内に架かる主な橋梁の周辺住民による景観評価から、人が景観を評価する際に、どのような視点で景観を見ているのか、何を基準に評価しているのかを住民へのアンケートから明らかにする。

2. 研究対象

橋は、いろいろな規模、形態を有し、それぞれの橋に対する周辺住民の評価は異なっていると思われる。矢作川は豊田市を縦断する形で流れ、市内にはその主流に13の橋梁が架けられている。本研究で対象とした橋は、そのうち図-1に示す豊田市内の主な橋梁の①平成記念橋、②高橋、③豊田大橋、④久澄橋、⑤竜宮橋、⑥鵜の首橋、⑦山室橋、⑧水源橋の8つである。それら橋の特徴を表-1に示す。

3. 景観意識調査

調査対象者は、中学生以上とし、調査項目は、8つの橋梁に対する認知度や好きな橋などについてである。調査は、平成14年8月に実施した。地区選定は矢作川周辺地域で、研究対象とした橋の近隣に居住する世帯を配布地区とし、無作為に選定した。配布地区の特徴を表-2に示す。なお、回収状況はどの地域も80%以上であった。回答者は、男性約45%、女性約55%と若干女性の方が多かった。年齢構成は全体的に50歳代が一番多かった。

キーワード 橋梁、景観

連絡先 〒471-8525 愛知県豊田市栄生町2-1 豊田工業高等専門学校 TEL 0565-36-5875



図-1 橋梁位置図

表-1 橋梁の特徴

番号、橋梁名	通行形態	特徴
①平成記念橋	下路	アーチ橋、4車線、両側通行
②高橋	下路	トラス橋、2車線、両側通行
③豊田大橋	下路	アーチ橋、2車線、両側通行
④久澄橋	下路	アーチ橋、4車線、両側通行
⑤竜宮橋	上路	桁橋、2車線、両側通行
⑥鵜の首橋	下路	トラス橋、1車線、両側通行
⑦山室橋	上路	ラーメン橋、4車線、両側通行
⑧水源橋	上路	桁橋、1車線、一方通行

4. 意識分析

図-2に地区ごとの好きな橋を示す。全体では豊田大橋が一番多く、地区べつにも一番多い。地区別の特徴として、第Ⅲ地区では、豊田大橋と共に平成記念橋が多い。

好きな橋を通ることが多いか、見る人が多いかを、どちらもあてはまるかを聞いた。その特徴として、川の右岸第Ⅰ,Ⅱ,Ⅵ地区では通ること、見るものがほぼ同数であるのに対し、河の左岸第Ⅲ,Ⅳ,Ⅴ地区では圧倒的に通ることが多いとなった。

表 - 2 調査対象地区の特性

地区	特徴
第Ⅰ地区	地形的に高台になっていて豊田市街地を一望。
第Ⅱ地区	名鉄豊田市駅付近で矢作川の右岸。昔からの市街地である。
第Ⅲ地区	豊田市北東部に位置し、古くから農業や畜産業を営んでいる人が多く住む地区。
第Ⅳ地区	第Ⅲ地区よりさらに東側。また新興住宅街がある。
第Ⅴ地区	第Ⅲ地区の南側。第Ⅱ地区と矢作川を挟んだ真向かいの位置にある。
第Ⅵ地区	豊田市の南に位置。比較的居住歴が長く、矢作川からの距離は近い。

好きな橋を通ることと8つの橋すべてを知っているという橋の認知度については、川の左岸では、橋を通ることが多く、さらに橋の認知度が高いという傾向があらわれた。これは、川の右岸に豊田市の中心市街地があり、左岸の住民は川を横断してくる必要があるためであると考えられる。また、川の右岸の第Ⅰ地区、第Ⅱ地区では通ることが少なく、さらに認知度が低いという傾向があらわれたが、第Ⅵ地区では通ることがそれほど多くないにもかかわらず、橋の認知度が高いという結果になった。この地区では、居住歴が長く比較的矢作川から近いため、橋を生活の一部として認識している方が多かったためと考えられる。

5. 因子分析結果

橋の印象を10の形容詞対を用い5段階で評価した結果と8つの橋に対して好きな順に並べ替えた結果を用いて因子分析を行った。ここでは8つの橋について順位づけた結果を示す。図-4に配置図を示す。豊田大橋、平成記念橋、久澄橋などの豊田市中心市街地に直接アクセスするような使用頻度の高い橋梁が右側に集中し、さらに山室橋、竜宮橋などの上路橋で郊外の橋が左側に集中している。また、豊田大橋、平成記念橋など、新しく規模の大きな橋が図の上側にあり、高橋のような規模が小さく比較的古いものが下側になっている。従って、第1因子は認知度が高く、便利な橋であるという要因に寄与していると考えられ、第2因子には橋梁の新旧などの要因が寄与していると考えられる。

6. まとめ

住民に対する調査結果より、①川の右岸、左岸による通行することの多少、②好きな橋を評価する視点、③中心市街地からの距離や使用頻度による認知度の違いが明らかとなった。

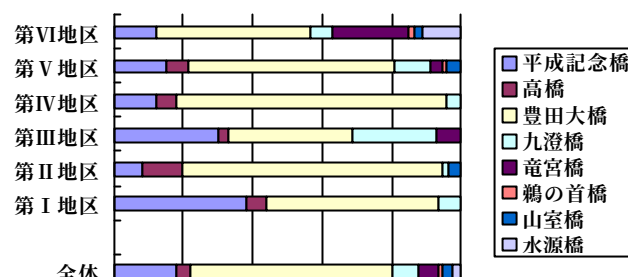


図 - 2 地区別の好きな橋 (%)

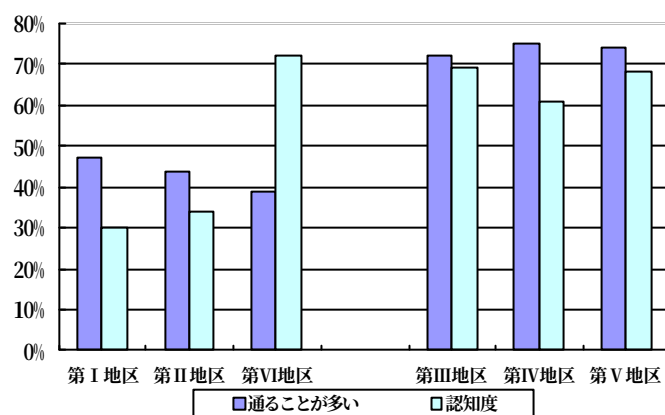


図-3 地区別の橋の認知度と通ることが多い割合

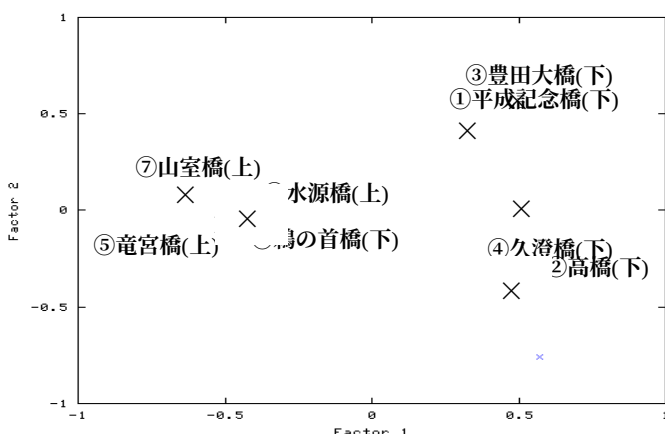


図-4 因子負荷量配置()内は通行形態

また、因子分析結果から都心か郊外かという要因と、橋の規模や存在感、新旧という要因が好きな順番を決定すると考えられる。橋の見え方の評価は、個人属性（居住地、好みなど）によって大きく異なり、また橋の好みは、よく利用する便利な橋などが多く好まれる傾向にあることがわかった。